

2011年5月21日(土)、千葉県労働者福祉センターにおいて、構成組織や地域協議会、関係団体から総勢90名の参加により、連合千葉政策討論集会を開催いたしました。

冒頭、佐藤政策委員会委員長より「震災により議論が不十分なため、従来からの提言を重視しつつも、連合の新ビジョンに関わるものと、震災に関わる課題について、政策討論集会を通じて補強して頂くよう、お願いしたい。」との挨拶を受けました。また、黒河会長からは、「政策を実現するための政治、社会的に広めるための国民・県民運動、それらが、ひとつになって展開されることの重要性を更に強く感じる。実現させなければならぬという視点で参加者の皆さんに議論をお願いしたい。連合の強さは、現場の強さであり、その視点で政策を取りまとめ、県に伝えて行きたい。」との挨拶がありました。

続いて行った、講演第1部は、連合本部、山本副事務局長から「働くことを軸とする安心社会」について講演を頂き、働くことを通じて支え合う希望と安心の社会を築くことの重要性について理解を深めることができました。

第2部では、千葉県防災危機管理監、防災危機管理課減災戦略班、班長 博士(理学)の浅尾氏より、「東日本大震災と今後の防災対策について」と題した講演を頂き、千葉県のおかれている現状や今後の課題について認識を深めることができました。

その後、「千葉県経済と産業の活性化」、「雇用の安定・創出」、「生活の安心・安定政策」の三分科会に分かれ、活発な議論が展開され、各論について補強することができ意義ある討論集会となりました。



千葉県に義援金を手渡す黒河会長

私たちが住む千葉県も東日本大震災の被災県であることから、「連合愛のカンパ事業」や「連合関東ブロック」・「連合東京」など多くの仲間から、県内で被災された皆さまの支援に活用して欲しいと心温まる支援金を連合千葉に託して頂きました。

連合千葉は、この支援金を有効に活用するため、4月21日、県内で被災された皆さまの生活再建支援の一環として千葉県が行っている「千葉県災害義援金」に200万円を寄託するとともに、農作物の風評被害や観光客が激減しているホテル業界の現状などを訴えながら、改善に向けた方策の早期実施を要請してきました。

千葉県に義援金を寄託するとともに  
風評被害対策の早期実施を要請しました

# NEWS れんごうちは

日本労働組合総連合会  
千葉県連合会(連合千葉)  
発行人 小柳光廣 編集人 辻 徳次郎  
〒260-0026 千葉市中央区千葉港4-4  
労働者福祉センター内  
TEL 043-244-2911 FAX 043-244-2751  
URL http://chiba.jtuc-rengo.jp/  
No.140 2011年6月

## つなごろう NIPPON 連合 第82回 千葉県中央メーデーを 「東日本大震災復興支援メーデー」 と位置づけ開催! すべての働く者の連帯で、働くことを軸とする安心社会と自由で平和な世界をつくらう! 「つなごろうNIPPON」を合言葉に震災の救援・復興に向け全力で支援しよう!

連合千葉は、4月29日(金・祝)10時から千葉県労働者福祉センターにおいて、組合員約550人の参加のもと「東日本大震災復興支援・第82回千葉県中央メーデー」を開催しました。

冒頭、3月11日に発生した東日本大震災で尊い命をおとされた皆さまに哀悼の意を表し黙祷を捧げたの式典に入りました。

式典1部では、行政関係、友好政党、連合千葉議員団、連合千葉高退連、福祉団体などから多くのご来賓に出席を頂くなか、黒河実行委員長の「つなごろうNIPPON!を合言葉に、働く者が一つになって震災からの復旧と復興そして、震災で影響を受けた仲間の支援に全力を尽くす」旨の挨拶に続き、森田千葉県知事、永山千葉労働局長、熊谷千葉市長、加賀谷民主党千葉県連副代表、村上社民党千葉県連合代表の皆さまより連帯の挨拶を受けました。

式典2部では、東日本大震災とりわけ千葉県内の被災状況や連合千葉の取り組み経過と今後の予定などを映像で紹介するとともに、千葉県労働者福祉協議会、中央労金千葉県本部、全労済千葉県本部より、福祉団体の大震災に係る取り組み状況について報告を頂きました。

また、本メーデーの共催地域協議会である千葉地域協議会ならびに市原地域協議会より、連合千葉が行う救援カンパの一部にと「義援金」が寄託されました。その後、メーデー宣言およびスローガン・サブスローガンを採択し、最後に、連合運動の更なる発展と一刻も早い震災からの復旧・復興を誓い合うガンパロー三唱で閉会しました。



会場の様子

式典終了後も、会場内に展示した被災状況の写真パネルを食い入るように見る人や、会場内で行ったカンパの呼びかけに参加者から多大な協力を頂くなど、一刻も早い震災からの復旧・復興を願い、そして総力で支え続けていく気持ちが一つになったメーデーとなりました。

なお、4月29日13時からJR千葉駅頭で千葉地域協議会が行った震災救援カンパ活動を皮切りに、各地域協議会主催の地域メーデーでも同カンパ活動が展開されました。



カンパに思いを託す参加者



被災写真を見る参加者



復興への決意を込めたガンパロー三唱



メーデー実行委員長  
黒河 悟

## 第82回 千葉県中央メーデー挨拶(要旨)

本メーデーは、3月11日に発生した東日本大震災により甚大な災害が引き起こされ、復旧・復興への道を歩み始めた中での開催となりました。私たちは今回の千葉県中央メーデーを「震災復興支援メーデー」と位置づけ実施することとしました。本集会を通して今後の一層の被災者支援について意志一致を図って参りたいと思います。

この大災害に対して今、日本はひとつになって復旧・復興に向け頑張ろうとしています。

災害が起こった直後から、日本全国に支援の輪が広まっておりますが、連合も「つながろう NIPPON」を合言葉に、「救援カンパ、救援物資、ボランティア派遣」などをはじめとした被災地を支える取り組みを進めております。皆さまには、引き続きこれらの取り組みへのご理解・ご協力をまずお願いいたします。被災地の再建には多くの年月が必要であると言われております。現地での支援だけでなく、まさにすべての行動が支援につながるという思いで、息長く支援を行なっていく決意をお互いにまず確認し合いたいと思います。

さて、今回の大震災は、地震・津波・原発事故など複合的な災害となっており、被災地をのみならず、日本の経済・社会全体に深刻な影響を与えています。千葉県内でも地震の影響を受け、工場の操業停止や縮小を余儀なくされたり、東北地方の被災地からの部品の調達ができずに生産が滞っているところもあります。また、観光地をはじめとしたホテルや旅館では相次ぐ予約のキャンセルで従業員の自宅待機や給与カットが進められ、倒産の危機に直面していますし、サービス業全般の売り上げも大きく落ち込んでいます。震災の影響は数え上げれば切りがありません。また、原発事故に絡んでの農水産物への風評被害も深刻です。

被災地への復旧・復興支援を進めるためにも、これらの課題の克服は急務です。連合千葉では、労働相談の取り組みを強化し、また被災地や風評被害の影響を受けた農水産物購入の協力なども進めておりますが、合わせて復興を支えるには、この国のGDPの6割を占める個人消費の活性化が今こそ必要です。震災が発生して今日で50日。本日のメーデーを契機に、改めて生産活動・消費活動をこれまで以上に活性化するよう社会に呼びかけたいと思います。

連合は昨年の暮れに、これからの私たちのめざすべき社会のイメージとして「働くことを軸とする安心社会」を提起しました。この考えのエッセンスは、人々の暮らしの安心は、「雇用の保障」と「人の繋がり」にあるということに尽きます。今回の大震災とそれに伴う支援・復興の取り組みは、まさにそのことを実践することです。2008年に起きた世界同時金融危機は、私たちに市場万能主義・自己責任第一という社会の在り方を問い直すきっかけを与えましたが、大震災の復興支援は、「人が支え合い、繋がり合う」希望の社会を創る端緒となって行くに違いありません。このことを胸に刻んで前進して行きたいと思っております。

最後に、メーデーは世界の労働者との連帯を確認する日です。今回の大震災に際し、世界の多くの労働組合から連合を通して日本と被災地へカンパをはじめとした支援が寄せられています。私たちは日頃から「連合愛のカンパ」を通じて多くの世界の労働者への支援を行っていますが、支援は一方的では決してありません。私たち日本の労働者が困難に直面している今日、世界の労働者から物心両面に亘る支援が寄せられていることに感謝し、連帯を確認し合いたいと思っております。

「つながろう NIPPON!」、そして「つながろう 世界の労働者!」。一層の働く者の国際的連帯の発展を祈念し、千葉県中央メーデーの挨拶とします。

## 県内各地域で「東日本大震災復興支援メーデー」が開催されました!

「東日本大震災復興支援メーデー」と位置づけた千葉県地域メーデーは、4月18日～5月1日にかけて県内14ヶ所で開催されました。



銚子・海印地域メーデー

震災で被災した地域では、予定していた会場が使用できず近隣地域との合同開催や開催規模を見直すなど工夫をしながらの開催でしたが、県内全体で4,754人も多くの仲間が集い、「つながろう NIPPON」を合言葉に震災からの復興に向け全力で支援することを誓い合いました。

また、各地域のメーデー会場を中心に行った「震災救援カンパ」では320万円を超える浄財が寄せられ、「連合本部・救援カンパ」に全額を寄託しました。



総武地域メーデー



成田・佐倉地域メーデー



野田・流山地域メーデー



### 第82回千葉県中央メーデー 東日本大震災復興支援宣言

3月11日午後2時46分、東日本太平洋沖でマグニチュード9.0の大地震が発生してから50日が経過し、第82回千葉県中央メーデーを迎えた。

改めて、思いもよらぬ災害で人命を奪われた犠牲者の皆さまに心からの哀悼の意を表するとともに、この大地震・津波で被災されたすべての被災者の皆さまにも心からのお見舞いを申し上げる。

政府は、地震発生直後に菅総理を本部長とする「緊急災害対策本部」を設置し、激甚災害地域の指定や大規模な自衛隊の災害出動をはじめとする、被災者救援の施策を展開している。壊滅的な被害となった史上稀に見る大災害に対して、今こそ与野党の壁を越え、すべての英知と行動力を結集して、復旧・復興に向けた希望のもてる日本経済・社会の道筋を国民に示すべきである。

また、福島第一原発の事故も国民に不安を生じさせている。政府は万全の対策を講じるとともに、情報の一元化と公開の徹底が求められる。

さらに、政府に対しては、労働者保護・雇用確保に向けた対策として、安全衛生対策の強化をはじめ、震災により休業・離職等を余儀なくされた労働者の救済、企業等に対する各種支援策の実施、復興に向けた雇用の創出と各種就職支援対策を積極的に取り組むことを引き続き求めていく。

連合は、被災地の救援・復興に向けてみんなでチームを組み、この甚大被害に対して救援カンパや救援物資の輸送、現地へのボランティア団の派遣を行ってきた。今後も被災地の救援・復興に向けて全力を傾注するとともに、復興の妨げとなる風評被害や自粛から被災地を守り支えるため、取り組みを強化していく。

今後の救援活動が長期間になることも視野に入れ、今こそ労働組合とNGO・NPOおよび関係組織の仲間は「つながろう NIPPON」を合言葉にみんなで立ち上がり、さらに連携を密にして、計画的な救援活動に積極的に参加しよう。

メーデーは、国際連帯の日である。私たちは、「国際労働組合総連合」(ITUC)と連携し、世界の貧困や飢餓、環境破壊や人権侵害への取り組みを強化する。そして、みずからの活動の質と量を向上させ、NGO・NPOなど多くの組織、すべての労働者とその家族や退職者とネットワーク型の連携をつくり上げ「働くことを軸とする安心社会」の確立に総力を結集しよう。